

2月23日は「富士山の日」です。三島の豊かな自然や風土は富士山の恩恵を受けています。イベントへの参加を通じて、市民の心のよりどころ富士山について思いをはせてみませんか。

富士山の日について…文化振興課 ☎ 983・2756

2月23日(火・祝)は 富士山の日

【楽寿園入園無料】

2月23日(火・祝) 午前9時～午後4時30分(最終入園午後4時)

☎楽寿園 ☎975・2570

富士山いただきマルシェ※入園無料

2月23日(火・祝)

午前9時～午後4時

楽寿園

クラフト雑貨や食べ物のお店が多数出店するイベント

楽寿園 ☎975・2570

富士山いただきマルシェ実行委員会・高木さん
☎090・2946・2680

箱根の里プラネタリウム無料投映

2月23日(火・祝)

楽寿園の里

全3回投映(各回20人・30分程度)

①午前10時30分 ②正午 ③午後1時30分

市内在住の人

※中学生以下は保護者同伴

楽寿園 ☎975・2570

2月21日(日)までに電子申請または電話で、箱根の里 ☎985・2131

郷土教室

「遊んで学ぼう富士山デー」

2月23日(火・祝) 午前10時～正午、午後1時～2時30分

郷土資料館(楽寿園内※入園無料)

富士山の溶岩を観察してみよう!

郷土資料館 ☎971・8228

環境講演会「富士山の恵みと三島」

2月23日(火・祝)

午前10時～11時30分

郷生涯学習センター3階講義室

富士山由来の町名、湧水(小浜池、鏡池など)、三島富士登山道、富士山信仰についての話

増田さん(静岡県地学会東部支部)

75人※応募者多数時抽選
楽寿園 ☎983・2647、☎kanky@city.mishima.shizuoka.jp

2月12日(金)までに環境政策課 ☎983・2647、☎kanky@city.mishima.shizuoka.jp

※駐車場台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください

湧水を探しながら富士山を眺めませんか?

2月23日(火・祝) 午前9時～正午

清住緑地公園の丸池と中郷温水池を中心に、富士山眺望ポイントを巡るコース 三石神社(集合) ↓加屋町 ↓清住緑地・丸池 ↓中郷温水池 ↓イトーヨーカドー屋上 ↓三島田町駅(解散)

50人※小学生以下は保護者同伴
楽寿園 ☎975・2570

2月15日(月)午後5時までに
楽寿園 ☎983・2754 または三島市ふるさとガイドの会 ☎981・7057 (平日午前10時

「正午」 ☎miguide@mishima-guide.sakura.ne.jp

※雨天中止・マスク着用・検温の上

1)参加下さい

富士山エコバッグをつくっちゃおう!

2月23日(火・祝)

午前9時～11時30分

郷生涯学習センター2階児童センター

富士山エコバッグの作成

対児童センター来館者

定20セット(なくなり次第終了)

楽寿園 ☎983・0890

【代替イベント】第2回大岡信さんお誕生月の催し つなげるしつながるし「ことばリレー」記録集配布

2月23日(火・祝)に市民文化会館で開催を予定していた「第2回大岡信さんお誕生月の催し」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催が中止となりました。代替イベントとして、谷川俊太郎さんをトッ

プバッターに三島市民がつないだ「ことばリレー」記録集の配布に変更します。

配布方法 「ことばリレー」参加者には記録集を送付、その他希望者は2月25日(木)から文化振興課で配布

配布部数 50部(先着順)

楽寿園 ☎983・2756

歴史の小箱

No.393

地域の歴史
谷田

今回は箱根山の西麓、大場川の左岸に位置する谷田について紹介します。

「谷田」の地名は、「矢田」という表記で鎌倉時代以降の古文書に見ることができ、江戸時代には、現在の谷田・柳郷地・錦が丘・松が丘・竹倉に当たる地域が「谷田」と呼ばれていて、その中に谷田・榎木(夏梅木)・小山・御門・竹倉の五つの集落が形成され、「谷田五箇」と呼ばれていました。この地では、旧石器時代から人々が生活を営んでおり、各時代の人々の足跡を示す多くの遺跡が確認されています。

錦が丘団地北西に位置する夏梅木古墳公園は、「夏梅木古墳群」という遺跡の一部を公園として整備したものです。一帯には、時代の流れとともに消滅してしまっただけのものも、二十余基から構成される古墳群があっ

たと推定されています。平成二〜三年にそのうちの円墳八基の発掘調査が行われ、六世紀末〜七世紀前半(古墳時代後期〜終末期)に築造された古墳群であることが明らかになりました。前面に広がる肥沃な湿地を経済基盤とする複数の集団が、墓域として利用していたのでしよう。

公園内には、第六号墳を新たな石材を補って復元してあります。調査時には、墳丘の側面から出入り可能な石室(石棺、羨道・墓道(棺を納める空間までの通路)と周溝(墳丘を囲む溝)が残っていました。周溝の規模・形状からして直径約11mの円墳であったと推定されています。

石棺の内部および石室内からは、耳飾りが二セット発見されました。したがってそこには、二人の被葬者の存在が想定され



▲発掘された第6号墳

ます。つまりは追葬という、先に葬られた一体を動かした



▲復元された第6号墳

てスペースをあけ、二人目を安置する行為があったものと考えられます。

石棺東側からは須恵器の提瓶(液体用の容器)と台付の碗が出土しており、両者はそれぞれ異なる時期に製作されたものです。この二つの資料が主な根拠となり、第六号墳は六世紀末に築造され、七世紀前半まで追葬もしくは祭祀が行われた円墳であると位置付けられています。

この円墳からはその他にも、馬具や飾大刀・鉄鏃(矢の先端部)といった武器類が出土しています。鏃は基本的に男性のみ、二人の被葬者のうち、少なくとも一人は男性であったでしょう。第六号墳の出土遺物は郷土資料館三階に展示してありますので、ぜひ実物をご覧になり、千四百年前の先人たちが葬られた景観に想像を巡らせてみてください。

ぼくの

おじいちゃんおばあちゃん

当番 わたなべ ひろき さん

ぼくのおじいちゃんおばあちゃんは、いつもお話をしてくれます。ぼくが、一年生の時からそれぞれの出身地の事や、子どものころの事を面白く話してくれたり、たまにぼくの悩みなどを聞いてくれたりします。

ぼくは、おじいちゃんとおばあちゃんのおかげで悩みを解決できたこともあります。だからこれからも二人と話していきたいと思いました。

ぼくは、こんな毎日楽しく話をしてくれる、おじいちゃんとおばあちゃんがとても大好きです。



渡辺寛己(徳倉小併)